

## これまでの施策に係る意見や課題

- ・フードバンク活動への協力企業の確保と、食品提供側と受取側のマッチングが必要。（フードバンク活動促進のための意見交換会（R3.2）の意見より）
- ・フードドライブの認知度が低く、過去に食品を提供したことのある人が少ない。（フードドライブモデル実施時（R2）の県民へのアンケートより）
- ・家畜飼料として利用可能なエコフィード資源の発掘及びマッチングと、エコフィード利用による畜産物の高付加価値化、ブランド化の推進が必要。

### フードバンク活動の拡大

#### <目的>

- ・食品関連事業者から発生する未利用食品の有効活用の促進
- ・普及啓発やマッチングの推進によるフードバンク活動の拡大

#### <実施内容>

富山県食品産業協会にフードバンク活動コーディネーターを設置し、フードバンク活動の普及啓発や食品の提供側と受取側のマッチングを推進

#### (1) 食品提供事業者の確保

- ①食品関連事業者にフードバンク活動の働きかけ  
賛同企業数：R4.9月末現在34社（R3:17社）
- ②食品関連事業者向け研修会の開催

[1回目]令和4年7月26日(火)14:00～15:30

[2回目]令和4年10月6日(木)14:00～15:30

[内容]フードバンク活動の取組み手順、事例紹介

#### (2) 食品提供先の確保

こども食堂等と食品の受け渡しについて調整  
(参考)富山県内こども食堂数/社会福祉協議会数  
R4.9月末現在33か所/15協議会(15市町村)

#### (3) マッチング

食品関連事業者からの提供情報に基づき、受取先の条件等を考慮し、マッチング

#### 【県内でのマッチング事例】

[(株)源：ますずし等各種弁当の提供]

累計14回、217食→こども食堂

[(株)ボン・リブラン：菓子類の提供]

累計3回、2,300個→こども食堂

フードバンク活動団体



### 令和4年度の主な取組み

#### フードドライブの拡大

#### <目的>

- ・寄付先との円滑なマッチング、活動の継続、活性化
- ・県民の理解促進と参加の拡大、取組みの定着

#### <実施内容>

- (1) 地域の実情に応じたローカル循環モデルの構築
  - ・地域内でのマッチング支援
  - ・地域循環モデルケースとして情報発信
- (2) スーパー等での常設窓口（無人）設置の水平展開
- (3) 県民への普及啓発（若者向け出前講座等の開催）

(参考)フードドライブ実施状況（予定を含む）  
R4.9月末現在40件  
(43団体により12市町村)



【アルビス株式会社】



【富山県消費者協会】



【とやま生活協同組合】



【富山商工会議所】

#### <活動状況>

- ・平成21年、NPO法人フードバンクとやまが活動開始。
- ・令和3年、NPO法人もったいないフードバンクとなみが活動開始。

### フードバンク活動団体等への支援

国の事業を活用し、フードバンク活動の発展に向けた取り組みを支援。

#### <令和3年度事業実績>

事業主体：フードバンクとやま  
事業内容：研修会等の開催、普及啓発等  
取扱量：29t(R2)→38t(R3)

#### <令和4年度支援状況>

事業主体：もったいないフードバンクとなみ  
事業内容：研修会等の開催、普及啓発等

### 「富山のエコフィード」を利用した畜産物ブランド化の推進

#### <目的>

- ・エコフィードの活用による飼料自給率の向上
- ・酒粕を活用した畜産物の新たなブランド化

#### <実施内容>

- (1) 食品製造業者と畜産農家との需給マッチング
  - ・新たなエコフィードの発掘（うどん製造屑、ワイン搾り粕）とマッチングに向けた調整
- (2) 酒粕給与による「とやま和牛」のブランド化
  - ①「とやま和牛 酒粕育ち」の生産拡大
    - ・飼養技術研修会の開催（R4.9.29）
    - ・R4年度は、200頭出荷予定（R3:97頭）
  - ②ブランド化検討会の開催、PR活動の実施
    - ・名称・ロゴデザイン発表会の開催（R4.7.19）
    - ・食のイベントやメディア等を活用したPR活動



【名称・ロゴデザイン発表会】



【ロゴデザイン】

### 今後に向けた取組みの方針

- ・フードバンク活動の普及啓発を継続し活動当事者を拡大するとともに、需給マッチングを行い、フードバンク活動の拡大・定着を図る。
- ・フードドライブを実施する団体のサポートを行うほか、結果をPRすることで、フードドライブの認知度向上と取組み拡大を図る。
- ・「とやま和牛 酒粕育ち」の生産拡大により酒粕利用量の増加を図るとともに、新たなエコフィード資源の発掘に努める。